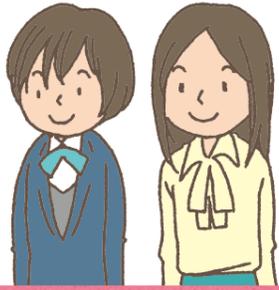


# 高校2年生以上の女の子 成人女性の方へ

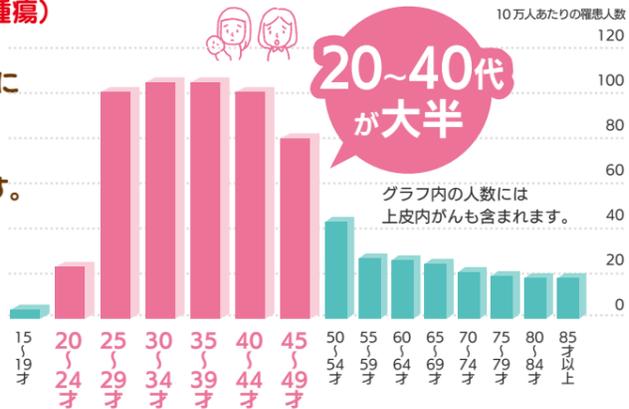
1997-2005年度  
生まれは  
2024年度まで  
無料

1996年度  
生まれ以前は  
自費で  
5~10万円



## 子宮頸がん HPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部にがん(悪性腫瘍)の発症に関係する型(=ハイリスクHPV)があります。このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から十数年かけて子宮頸がんを発症してしまふことがあります。また、尖圭コンジローマという性感染症の原因にもなります。



子宮頸がん  
で亡くなる人数  
8人/日



治療のため  
多くの女性が  
子宮摘出



## 17歳以上の女性へのHPVワクチンの効果と有効性

HPVワクチンはHPVの感染を予防するワクチンで、既に感染したウイルスを排除する効果はありません。しかし、性交渉をすると必ず感染するわけではないので、初交後のHPVワクチン接種も十分に効果があります。実際に、17歳以上で4価のHPVワクチン(4種類のHPVを予防)を接種することで、将来の子宮頸がんの約53%を防ぐことがわかっています。9価のHPVワクチン(9種類のHPVを予防)であれば、更に効果が高いと考えられています。このため、HPVワクチンは26歳以下の全ての女性に接種が勧められており、27~45歳の女性も一定の効果が期待できます。

26歳以下  
27~45歳女性も



## HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。数多くの研究で、HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではなく、ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

## 1997-2005年度生まれの女性は 2022年4月から3年間特例で 無料接種 できます

1997~2005年度生まれの女性で、国が積極的にお勧めをしていなかった時期に打ち逃した人は、2022年からの3年間は原則無料で接種できる(キャッチアップ接種)ことが決まりました。合計3回の接種が必要ですが、1~2回接種したあとに中断した人も、残りの回数を無料で接種できます。その場合は前と同じワクチンを接種することになります。補助を受けるための手順は、住民票がある自治体に問い合わせてみてください。すでに接種推奨年齢を過ぎていますので、なるべく早めの接種がおすすめです。

1996年以前に生まれた女性も、自費での接種が可能です。合計5~10万円かかりますが、医療機関やワクチンの種類によって異なりますので、事前に産婦人科や内科へ取り扱うワクチンの種類や費用をお問い合わせください。

性交渉歴  
アリでも  
OK

3年間  
無料

早め!



### 国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していました(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関[WHO])、米国疾病予防管理センター[CDC]などもHPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。

# がんを予防できる ワクチン 知ってますか?

全ての人に  
関係がある

日本だけ・子宮頸がんだけで毎年3,000人、その他の関連する病気も含めると、男女問わず年間数千人もの命を奪っているHPV(ヒトパピローマウイルス)。ご自身やお子さんの年齢・性別に合うページを見つけて、HPV感染を予防するワクチンについて、一緒に理解を深めましょう。



高校2年生以上の  
女の子と  
成人女性の方へ

4  
ページへ

高校1年生以下の  
女の子と  
その保護者の方へ

2  
ページへ

男の子と  
その保護者  
成人男性の方へ

3  
ページへ

HPVはともありふれたウイルスで8割以上の男女が一生のうち一度は感染しています。



子宮頸がんのうち95%以上はHPVの感染によるものです



男性に多い中咽頭がんや肛門がんもHPVの感染が原因の一つです



1997~2005年度生まれの女性は2022年4月から無料で接種できます



1997~2005年度生  
3年間  
無料

日本では小学校6年生から高校1年生までの女の子は2価・4価のHPVワクチンを無料で接種できます



無料

高1の9月までに初回を接種すると全3回無料で接種完了できます

安全性が確認されたため2021年11月に積極的接種勧奨が再開しました



国が積極的に  
おすすめ

みんなパピ!  
みんなが知ろう HPV

「みんなパピ!みんなが知ろう HPV プロジェクト」は HPVによって引き起こされる病気と予防方法についてわかりやすく解説します!

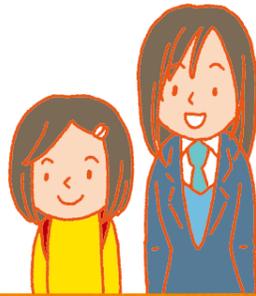
みんなパピ! 検索

この資料よりさらに詳しい情報を知りたい方はこちら!



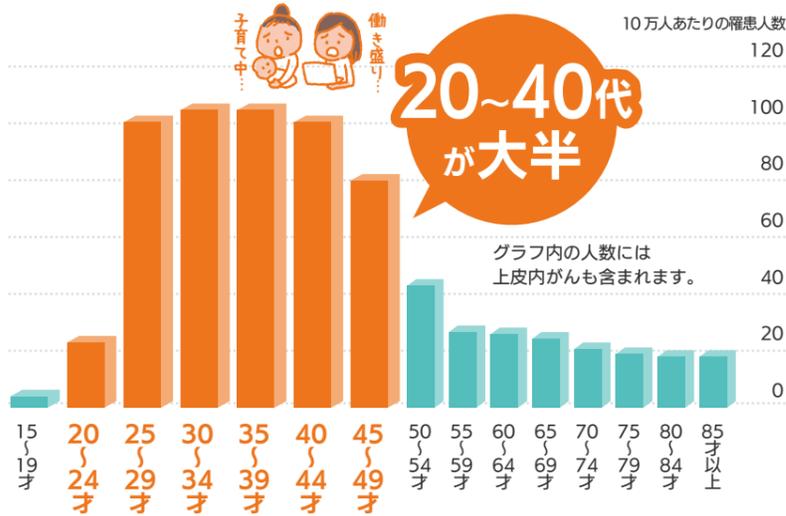
# 高校1年生以下の女の子とその保護者の方へ

高1の9月までに  
初回を接種すると  
全3回無料で接種完了  
できます



## 子宮頸がんと HPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部にがん(悪性腫瘍)の発症に**関係する型(=ハイリスクHPV)**があります。このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から数十年かけて子宮頸がんを発症してしまうことがあります。また、**尖圭コンジローマ**という性感染症の原因にもなります。



子宮頸がんで亡くなる人数 **8人/日**

治療のため多くの女性が **子宮摘出**

### 女子へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくり、HPVの感染を防ぎます。  
17歳までに4価のHPVワクチン(4種類のHPVを防ぐ)を3回接種することで、将来の子宮頸がんの約88%を予防できます。



### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに**世界で合計約5億回以上接種**されている安全なワクチンです。数多くの研究で、「HPVワクチンは**特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない**」ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。



## HPVワクチンの公費助成と接種方法

HPVワクチンは国の定める定期予防接種で、「**小学校6年生~高校1年生の女の子**」は無料で接種できます。定期予防接種の予診票の受け取り方は、自治体により異なります。接種する際には、まずは**自治体HPなどで確認**し、指定の医療機関に予約を取って受診しましょう。



### 国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していました(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関[WHO]、米国疾病予防管理センター[CDC]など)もHPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。

# 男の子とその保護者と成人男性の方へ



自費  
5~10万円

## 男性に関する HPV(ヒトパピローマウイルス)が引き起こす病気

HPVというと子宮頸がんなど女性の病気の原因というイメージがあるかも知れませんが、でも、実は**中咽頭がん**や**陰茎がん**、**肛門がん**など**男性に起こるがんの原因**にもなるのです。これらに加えて、**尖圭(せんけい)コンジローマ**という性器のイボもHPVの関連疾患です。



### 男性へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくり、HPVの感染を防ぎます。日本では、**肛門がんの約8~9割**、**中咽頭がんの約半分**で**HPV感染が原因**だと言われており、それらはHPVワクチンで予防できると考えられています。また、尖圭コンジローマという性感染症も予防できます。そして、男性がHPVワクチンを接種することは、**大切なパートナーを病気から守ることもつながります。**



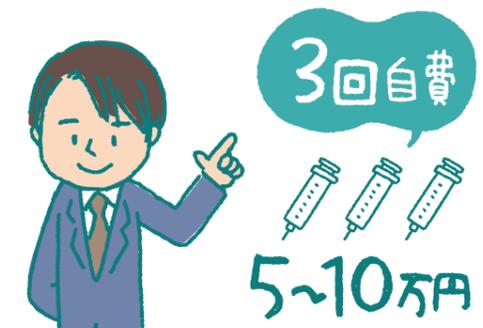
### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは、2019年までに**世界で合計約5億回以上接種**されている安全なワクチンです。数多くの研究で、「**HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない**」ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

## HPVワクチンの接種方法

9歳以上の男性が接種可能で、接種する場合には年齢に関わらず**自費**になります(2021年1月時点)。**合計3回の接種**が必要で、医療機関や種類によって異なりますが、**合計5~10万円**ほどかかります。医療機関に問い合わせ、HPVワクチンを男性も接種可能か、事前にご確認ください。

医療機関に問い合わせ HPVワクチンを男性も接種可能か → 3回接種 合計5~10万円



### 国内外の公的機関の見解

世界中の100以上の国と地域で女性だけでなく男性にもHPVワクチンの適応があり、アメリカ、イギリス、オーストラリアなど約40の国と地域では男性のHPVワクチン接種にも公費助成をしています。実際にオーストラリアでは約9割、アメリカでは約6割の男性がHPVワクチンを接種しています。日本でも2020年12月にHPVワクチン(4価)の男性への接種が承認されました。



# がんを予防できる ワクチン 知ってますか?

全ての人に  
関係がある

日本だけ・子宮頸がんだけで毎年3,000人、  
その他の関連する病気も含めると、男女問わず  
年間数千人もの命を奪っているHPV(ヒトパピローマウイルス)。  
ご自身やお子さんの年齢・性別に合うページを見つけて、  
HPV感染を予防するワクチンについて、一緒に理解を深めましょう。



高校2年生以上  
の女の子と  
成人女性の方へ

4

ページへ

高校1年生以下  
の女の子と  
その保護者の方へ

2

ページへ

男の子と  
その保護者  
成人男性の方へ

3

ページへ

HPVはとともありふれたウイルス  
で8割以上の男女が一生のうちに  
一度は感染しています。



子宮頸がんのうち95%以上は  
HPVの感染によるものです



95%↑

男性に多い中咽頭がんや肛門がん  
もHPVの感染が原因の一つです



1997~2005年度生まれの女性は  
2022年4月から  
無料で接種できます



1997~  
2005年度生  
3年間  
無料

日本では小学校6年生から  
高校1年生までの女の子は  
2価・4価のHPVワクチンを  
無料で接種できます



高1の9月までに  
初回を接種すると  
全3回無料で接種完了  
できます

安全性が確認されたため  
2021年11月に  
積極的接種勧奨が再開しました



国が  
積極的に  
おすすめ

みんなパピ!

みんなで知ろう HPV プロジェクト

「みんなパピ!みんなで知ろう HPV プロジェクト」は  
HPVによって引き起こされる病気と  
予防方法についてわかりやすく解説します!

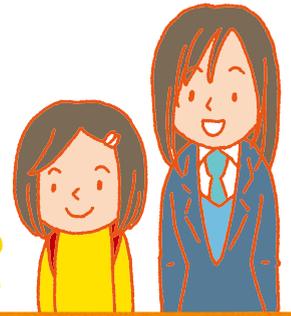
みんなパピ! 検索



この資料より  
さらに詳しい情報を  
知りたい方は  
こちら!



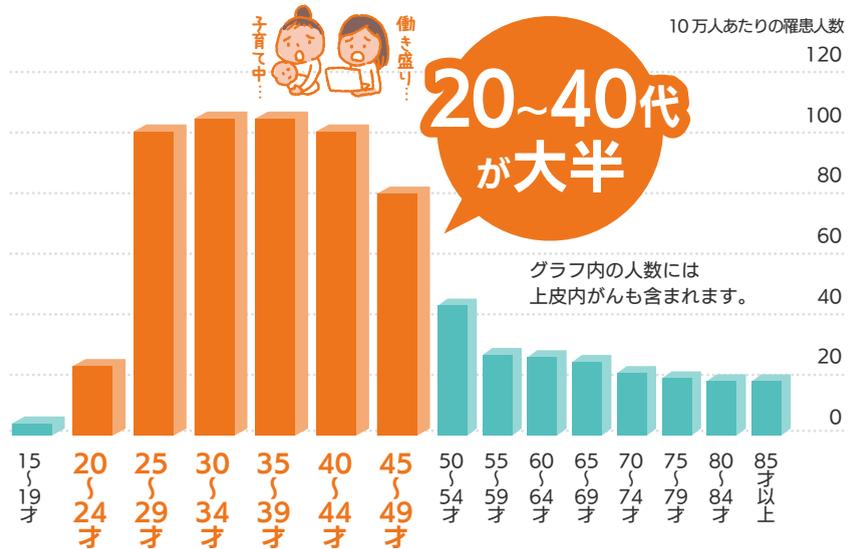
# 高校1年生以下の女の子とその保護者の方へ



高1の9月までに  
初回を接種すると  
全3回無料で接種完了  
できます

## 子宮頸がんと HPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部にがん(悪性腫瘍)の発症に関係する型(=ハイリスクHPV)があります。このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から十数年かけて子宮頸がんを発症してしまふことがあります。また、尖圭コンジローマという性感染症の原因にもなります。



子宮頸がんて亡くなる人数 **8人/日**

治療のため多くの女性が **子宮摘出**

### 女子へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。

17歳までに4価のHPVワクチン(4種類のHPVを防ぐ)を3回接種することで、将来の子宮頸がんの約88%を予防できます。



### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。数多くの研究で、「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」ことが確かめられています。

日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。



## HPVワクチンの公費助成と接種方法

HPVワクチンは国の定める定期予防接種で、「小学校6年生~高校1年生の女の子」は無料で接種できます。定期予防接種の予診票の受け取り方は、自治体により異なります。接種する際には、まずは自治体HPなどで確認し、指定の医療機関に予約を取って受診しましょう。



### 国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していましたが(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関[WHO])、米国疾病予防管理センター[CDC]などもHPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。



# 男の子とその保護者と成人男性の方へ



自費  
5~10万円

## 男性に関する HPV(ヒトパピローマウイルス)が引き起こす病気

HPVというと子宮頸がんなど女性の病気の原因というイメージがあるかも知れませんが、**でも、実は中咽頭がんや陰茎がん、肛門がんなど男性に起こるがんの原因にもなるのです。**これらに加えて、**尖圭(せんけい)コンジローマ**という性器のイボもHPVの関連疾患です。



### 男性へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。日本では、**肛門がんの約8~9割、中咽頭がんの約半分**で**HPV感染が原因**だと言われており、それらはHPVワクチンで予防できると考えられています。また、尖圭コンジローマという性感染症も予防できます。そして、男性がHPVワクチンを接種することは、**大切なパートナーを病気から守ることもつながります。**

パートナーを守ることも



### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは、2019年までに**世界で合計約5億回以上接種**されている安全なワクチンです。数多くの研究で、**「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」**ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

## HPVワクチンの接種方法

9歳以上の男性が接種可能で、接種する場合には年齢に関わらず**自費**になります(2021年1月時点)。**合計3回の接種**が必要で、医療機関や種類によって異なりますが、**合計5~10万円**ほどかかります。医療機関に問い合わせ、HPVワクチンを男性も接種可能か、事前にご確認ください。

医療機関に  
問い合わせ

HPVワクチンを  
男性も接種可能か

3回接種  
合計5~10万円

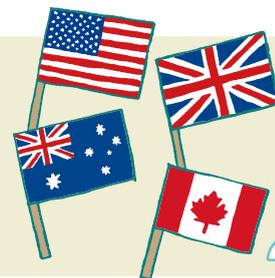


3回自費

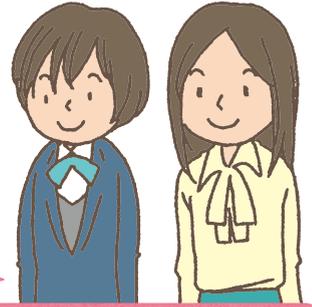
5~10万円

### 国内外の公的機関の見解

世界中の100以上の国と地域で女性だけでなく男性にもHPVワクチンの適応があり、アメリカ、イギリス、オーストラリアなど約40の国と地域では男性のHPVワクチン接種にも公費助成をしています。実際にオーストラリアでは約9割、アメリカでは約6割の男性がHPVワクチンを接種しています。日本でも2020年12月にHPVワクチン(4価)の男性への接種が承認されました。



# 高校2年生以上の女の子 成人女性の方へ

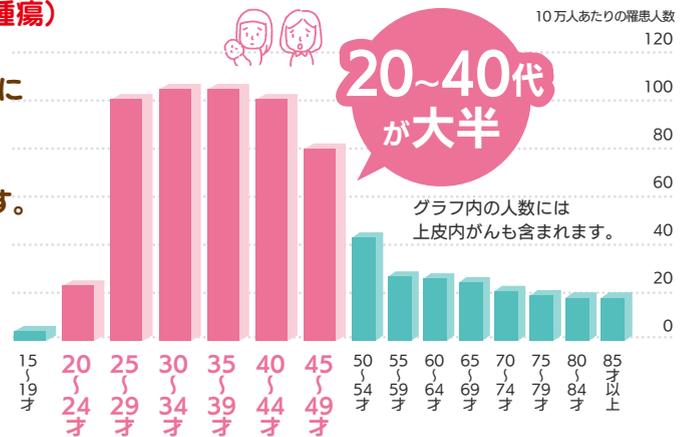


1997-2005年度  
生まれは  
2024年度まで  
**無料**

1996年度  
生まれ以前は  
自費で  
5~10万円

## 子宮頸がん と HPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部に**がん(悪性腫瘍)の発症に関係する型(=ハイリスクHPV)**があります。  
このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から十数年かけて子宮頸がんを発症してしまふことがあります。  
また、**尖圭コンジローマ**という性感染症の原因にもなります。



子宮頸がん  
で亡くなる人数  
**8人/日**

治療のため  
多くの女性が  
**子宮摘出**

### 17歳以上の女性へのHPVワクチンの効果と有効性

HPVワクチンは **HPVの感染を予防** するワクチンで、**既に感染したウイルスを排除する効果はありません**。しかし、性交渉をすると必ず感染するわけではないので、**初交後のHPVワクチン接種も十分に効果があります**。  
実際に、17歳以上で4価のHPVワクチン(4種類のHPVを予防)を接種することで、将来の**子宮頸がんの約53%を防ぐ**ことがわかっています。  
9価のHPVワクチン(9種類のHPVを予防)であれば、更に効果が高いと考えられています。  
このため、HPVワクチンは**26歳以下の全ての女性に接種が勧められており、27~45歳の女性も一定の効果期待**できます。



### HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに**世界で合計約5億回以上接種**されている安全なワクチンです。  
数多くの研究で、**「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」**ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

## 1997-2005年度生まれの女性は 2022年4月から3年間特例で **無料接種** できます

1997~2005年度生まれの女性で、国が積極的にお勧めをしていなかった時期に打ち逃した人は、**2022年からの3年間は原則無料で接種できる(キャッチアップ接種)**ことが決まりました。

合計3回の接種が必要ですが、**1~2回接種したあとに中断した人も、残りの回数を無料で接種できます**。

その場合は前と同じワクチンを接種することになります。

補助を受けるための手順は、住民票がある自治体に問い合わせてください。すでに接種推奨年齢を過ぎていますので、**なるべく早めの接種がおすすめです**。

1996年以前に生まれた女性も、**自費での接種が可能です**。

合計5~10万円かかりますが、医療機関やワクチンの種類によって異なりますので、事前に産婦人科や内科へ取り扱うワクチンの種類や費用をお問い合わせください。



### 国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していましたが(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関[WHO])、米国疾病予防管理センター[CDC]などもHPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。